

春季大祭・豊穰祈願祭 理事長挨拶

「春季大祭・豊穰祈願祭」、おめでとうございます。

早春の香り漂う聖地・瑞雲郷におきまして、全国の皆さまと共に大祭を執り行わせていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

本日私どもは、神の子たるメシアとして新しくお生まれになった明主様に結ばれたものとして、こうして聖地に身を置かせていただきました。

そして、私ども一人ひとりの内側に成し遂げられている大光明輝く天国に心を向け、真の親であられる神様のご存在とみ旨を知るといふ、本当の救いに目覚めさせていただけることを、明主様と共にあるメシアの御名にあつて、心からの喜びをもってご奉告させていただきました。

本日の大祭には、教主様のご出座を賜っています。

教主様には、明主様が仰せになった「地上天国建設」「人類救済」「真文明世界の創造」の御言葉に込められた本当のみ心を只管求められ、どのような中にあつても、明主様の真実をご教導くださっておりますこと、全国の皆さまと共に心から感謝申し上げたいと存じます。

また、本日は、教主夫人であられる岡田まゆみ様と、教主補佐の岡田真明様のご臨席をいただいております。ここでご紹介をさせていただきます。

奥様、教主補佐、どうぞお立ちくださいませ。

ありがとうございます。

さらに、本日は、いつのめ教団を代表して、午前と午後合わせて約160名の信徒の方々もご参拝になっております。私どもにとりましても、たいへん勇気づけられるご参拝となりましたこと、心より感謝申し上げます。

さて、誠に遺憾なことではありますが、世界救世教は、現在、教主様のご教導に与り、み教えの神髓をお受けさせていただこうとする私どもと、一方で、そうした信仰を認めず、強固に排除しようとする東方之光やいつのめ教団小林執行部との間で、極めて緊張した状態にあります。

信徒の皆さまには多大なるご心配とご心痛をおかけする事態に至っておりますこと、^{すのひかり}⑤之光教団の代表たる理事長として、先ずは心からお詫び申し上げたいと存じます。誠に申し訳ございません。

先般、「立春祭」の折にお伝えしましたように、包括法人世界救世教の「責任役員会」において、東方之光代表の3名の役員といつのめ教団の小林理事長が、⑤之光教団に対して、教主様のお姿とお言葉に倣う「教団方針」が世

界救世教の教義に著しく違反しているとの的外れの嫌疑をかけ、㊦之光教団に対する包括・被包括関係廃止を強行に議決し、併せて、仲泊管長の解任を議決したと称しております。

その後、包括・被包括関係廃止のための規則変更を文化庁に申請するため、教主様に承認を求めたようです。

勿論、教主様は、断固として承認されなかったと伺っております。

今後も、彼らは、教主様と私ども㊦之光教団、そして、教主様のご教導を心から求めるいづのめ教団の世界中の多くの専従者、信徒の思いを一切無視し、様々な手続きを進めていくものと思われます。

その一環として、包括「責任役員会」と称する方々は、本日、教主様が私ども㊦之光教団の祭典にお出ましになることも、「お出にならないように」と、教主様の行動に制約をかけようとしている、ということをお伺いしております。

また、そればかりではなく、彼らは、弁護士見解を添えて、教主様に対して、教主として推戴した決議を取り消し、教主執務棟や現在住居とされている碧雲荘からの退去や給与の支払い停止を示唆する文書を送付してきたとも聞いております。

そのような中であっても、教主様は、私ども㊦之光教団信徒のため、本日、万難を排しておいでくださっています。誠にありがたいことと存じます。

また、彼らは、㊦之光教団の信徒のことを信仰難民と呼び、難民救済という口実で窓口を設置したやに聞いております。

さらに、残念なことには、私ども㊦之光教団のごく一部の名誉職の方が、ご自分の居場所を含めた㊦之光教団信徒の受け皿を、東方之光に依頼しております。

明主様のご聖業を継承される教主様を「尾行・盗聴・盗撮」し、蔑ろにする人々の手に教団を委ね、そして、そのような団体に私ども㊦之光教団信徒の受け皿を依頼するなど、狂気の沙汰であると存じます。

私は、このままでは、世界救世教が、明主様のみ教えとご事蹟の神髓を真にお受けする宗団ではなくなり、組織にとって都合のいい明主様だけをお受けしていく宗団になってしまうのではないかと、強い危機感を抱いております。

私は、教主様が、明主様のすべてのみ教えやご事蹟に込められた本当のみ心と、その源にある神様のご意志をなんとしても受け継ごうとされる強い覚悟を持たれて、私どもをご教導くださっているものと固く信じております。

私どもが、“本当の明主様”に辿り着くためには、教主様のご教導がどうしても欠かせないものであると心から実感しています。

ですから、私は、この度の暴挙に対して、確固たる対応を講じてまいります。

まず、法的な対応として、裁判所に、包括・被包括関係廃止の無効を中心とした訴訟を起こしてまいります。

そして、組織的な対応としましては、教主様のご教導を心から求めておられるいつのめ教団の全国の専従者、信徒の皆さまをはじめ、志を同じくする世界中の方々との連携、協働を大切に進ませてもらいたいと存じます。

私は、このような法的、組織的対応もさることながら、最も大切なことは、私ども自身の信仰的な対応であると存じます。

私ども世界救世教の信徒は、どこまでも、何があっても、“明主様の真実”を全身全霊にお受けさせていただくことを願う宗団であります。

明主様ご昇天から半世紀以上を経て神様が顕してくださった、人類の救いにとって極めて重大な「全く新しい信仰」の灯を、私どもは決して消してしまう訳にはいかないという“大義”をもって進ませてもらいたいと存じます。

ですから、この度の浄化の本質は、東方之光やいつのめ教団小林執行部との戦いではありません。法的な戦いでもありません。私ども自身の中にある、革正すべきもの、悔い改めるべきものとは何かを見つめ、実践することなのではないでしょうか。

例えば、明主様は、「本教は今までの宗教とは余程異なっており、既成宗教観念ではちょっと判り難いと共にその点に本教の大いなる意味を見出すのである」（「世界救世教早わかり」）と仰せになり、また、「本当をいえば一般人の頭脳に沁み込んでいる既成宗教観を抜いてしまわなければ、本教の実体は到底掴み得ないのである」（「宗教文明時代〈上〉」）とみ教えくださっています。

しかしながら、私どもの中にも、既成宗教的な信仰や、自分本位、人間本位の信仰が色濃く存在しているのではないのでしょうか。

そうした私どもが、「メシアの御名」にある赦しをお受けして天国に立ち返り、自分自身をすべてのものと共に主神に委ねさせていただく「想念の御用」、「想念の実践」こそが、今私どもがさせていただく最も大切な実践であると思います。

自分のことを外にして、他を批評・非難して解決されるものは、一つもありません。攻撃されれば、敢然として現実的に対応することは欠かせません。

しかし、それ以上に、すべてを統括されている神様のご意志に少しでも気づかせていただくことが、この度の浄化の本質なのではないでしょうか。

私どもは、「大光明」のご神体をお受けし、その上、「メシヤの御神」という真に尊き御名を奉称することをお許しいただきました。

教主様は、今年の「秋季大祭」の折、

私どもの中にあるメシヤの御名を認める思いも認めない思いも、その相反する二つのものを一つのものとして赦してくださったことに感謝し、すべてのものと共に、明主様と共にあるメシヤの御名にあつて、赦され、救われたものとして、天国に立ち返らせていただくことが私どもの務めではないかと思ひます。

と、このようにご明示くださいました。

ですから、私は、この度の教団の浄化は、「大光明」と「メシヤの御名」に込められた神様のご意志を本当にお受けし、宣べ伝えていくものへと導いてくださる大切な養いの機会なのだと思わせていただいております。

また、教主様は、「立春祭」に際してのいつのめ教団信徒への「メッセージ」の中で、「眼まなこ開き破壊の裏に創造つちの槌みわざを揮はす神業見られよ」というお歌について、

たとえ私どもにとって破壊的に感じることもあつても、主神が私どもの中で創造の力を揮っておられることを認めなさい、と語りかけてくださっているのではないのでしょうか。

とお示しくださっています。また、「暗雲の幕うち破り日の如くメシヤの救の光出でなむ」というお歌にも触れられ、

私どもの心の中にどんなに深い暗雲が漂っていても、私どもの本体である「霊の体」には、その暗雲の幕を打ち破る主神のパワーが、メシヤの救いの光として太陽のように輝いていますよ、と呼びかけてくださっているように思ひます。

と、このようにご教導くださっています。

私は、教団が現在大きな危機の中にあると申し上げましたが、教主様の「メ

ッセージ」を拝読させていただき、実は、人類の救いにとって極めて重大なことを受け止めさせていただける千載一遇のチャンスなのではないかと思わせていただきました。

私どもは、今こそ、自らのうちに大光明の燦然と輝く無限の光と力があることに思いを致し、その光と力を自分のものとしていたことを悔い改め、神様の赦しを心からの喜びと申し訳なさりと畏れ多さをもってお受けさせていただき信仰へと、ご一緒に大転換をさせていただきますように。

本日、私どもは、大祭に併せて、今年一年の豊かな実りを祈願する「豊穰祈願祭」を執り行わせていただきましたが、私ども自身が万物と共にメシアの養いをお受けし、神様の子どもとしてたわわな実を結ばせていただくことをお誓い申し上げ、聖地を出発させていただきたいと存じます。

この後、いづのめ教団と⑤之光教団の代表の方々が感謝奉告をしてくださいますが、私どもの大切な学びとさせていただきたいと思えます。

そして、教主様のお言葉を賜ります。

私どもは、本日賜りますお言葉を心の中心に銘記し、教主様と一つ心で、明主様を模範として主神にお仕えさせていただき本当の信仰へと、希望に胸を膨らませ進ませさせていただきますように。

皆さまの日々のご神業奉仕の上に、大いなるみ恵みと安らぎを賜りますように祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

教主様のお出ましの前に、大切な時間を賜りましたこと感謝申し上げます。ありがとうございました。